

・ 中心市街地の状況からみた事例都市の位置づけ

1. 東海3県の中心市街地活性化基本計画

(1) 中心市街地活性化基本計画の策定状況

東海3県では47都市で策定済み(2003.7末現在)。市で策定されていないのは愛知県10市(今回の事例都市の碧南市、高浜市を含む)、岐阜県3市、三重県3市。町で策定されているのは愛知県5町(今回の事例都市の田原町、西春町を含む)

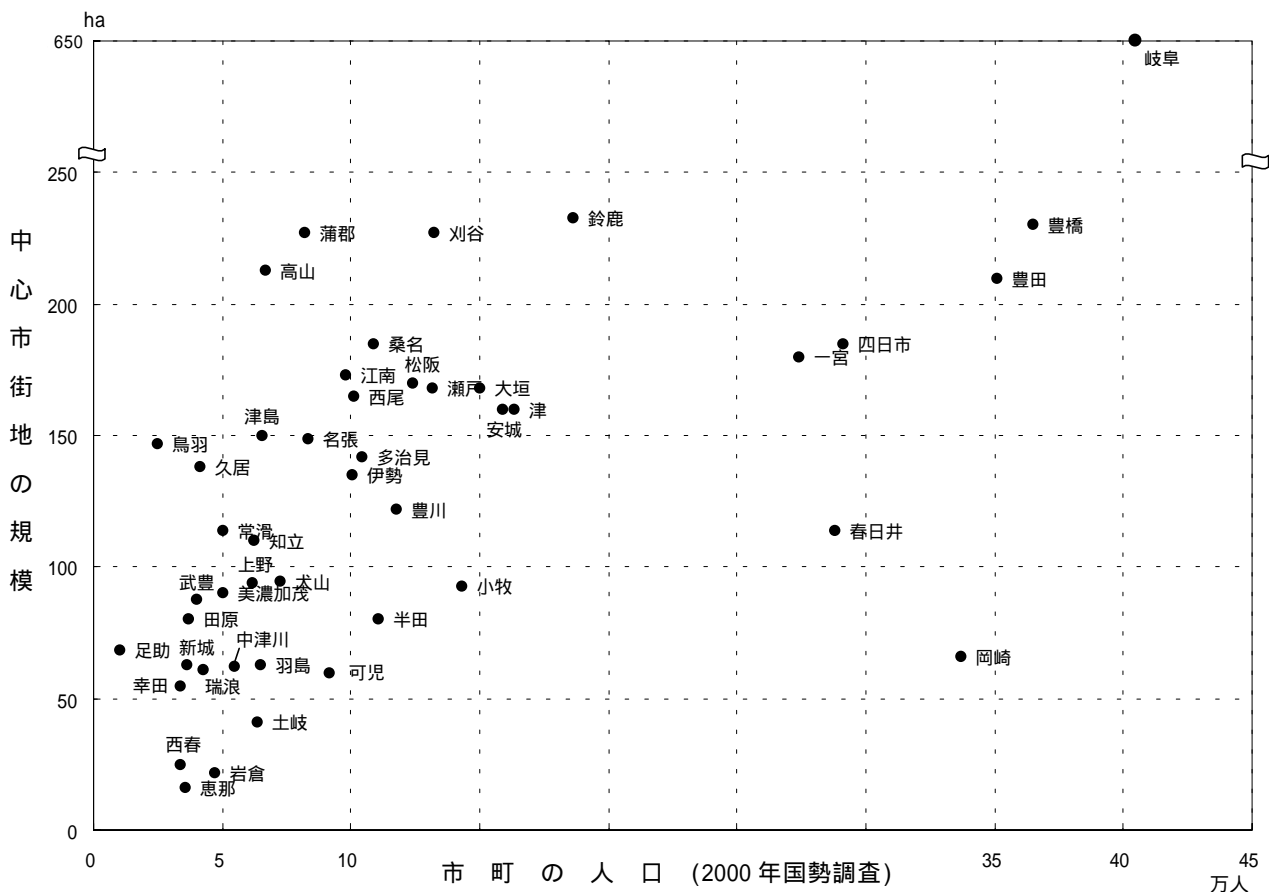
各務原市、稲沢市は人口が10万人以上あるが策定されていない。逆に、人口が1万人弱の足助町、2.5万人の鳥羽市では策定されている。人口規模が大きい都市が中心市街地活性化の対象となっているとは限らない。小さな都市でも中心市街地が明確でその活性化が重要な課題となっているところが対象になっているといえる。

(2) 中心市街地の規模

名古屋市の中心市街地の規模は580haと大きい。名古屋市の場合、中部圏の中心市街地と位置づけられることから別格として考えた方がよい。

東海3県でもっとも大きい規模を有するのは岐阜市の650haで名古屋市よりも大きく、突出している。次に大きいのは、鈴鹿市、豊橋市、蒲郡市、刈谷市、高山市、豊田市の230~210ha。人口規模は36万人~7万人弱まであり、人口規模と中心市街地の規模は比例していない。全体に実態としての中心市街地よりも広めに設定されているケースが多いように見うけられる。このような中で、人口規模が大きいにもかかわらず、中心市街地の規模がコンパクトに設定されているのが岡崎市、春日井市である。

図 市町の人口と中心市街地の規模



注：名古屋市を除く

(3) 中心市街地活性化基本計画策定の背景

中心市街地活性化計画では、市街地の整備と商業の活性化が2本柱であり、それぞれどちらを重点にするかによって市町村の窓口が決められている。すなわち、都市計画部局が窓口になっているところは市街地の整備改善、商工部局が窓口になっているところは商業活性化が大きなねらいであるといえる。ただし、半田市のように市街地の整備改善が主であるが、当時の受け皿の枠の関係で産業部局が窓口になっているという特殊なケースもある。

策定の背景をみてみると、以下のようなケースがあげられる。

現在進行中の基盤整備の推進を目的

中心市街地では様々な基盤整備事業がすでに実施されているケースが多いが、このような基盤整備を進めるにあたって、国からこの計画に位置づけることが前提であるという指導が出され、そのために策定されたケースである。

半田市、春日井市、西春町などが該当する。窓口が都市計画部局であるばかりでなく、春日井市、西春町はその基盤整備を担当する部局が窓口となっている。

新たなハード事業の展開を目的

中心市街地活性化を大きな課題として捉え、そのための部局を設置し、そこが窓口となって今後、新たなハード事業を展開していこうとしているケースである。

豊橋市、豊川市などが該当する。今後、再開発などのハード事業をしかけながら展開していこうとしている。

地場産業振興を中心とした商業活性化を目的

中心市街地の商業活力の低下が著しく、シャッター商店街化している現状に対して何とかしようということから策定されたケース。特に、東海地方では、独自の地場産業をもとに発展した都市が多いが、地場産業の衰退とともに中心商業地も衰退しており、地場産業振興とともに商業活性化がとりあげられているケースが多い。

瀬戸市、多治見市などが該当する。

観光を中心とした商業活性化を目的

中心市街地の衰退に対し、観光を軸に活性化を図ることを意識しているケース。まちなかの資源を有効に活用することを主眼にあげており、一定の成果があがりつつあるといえる。

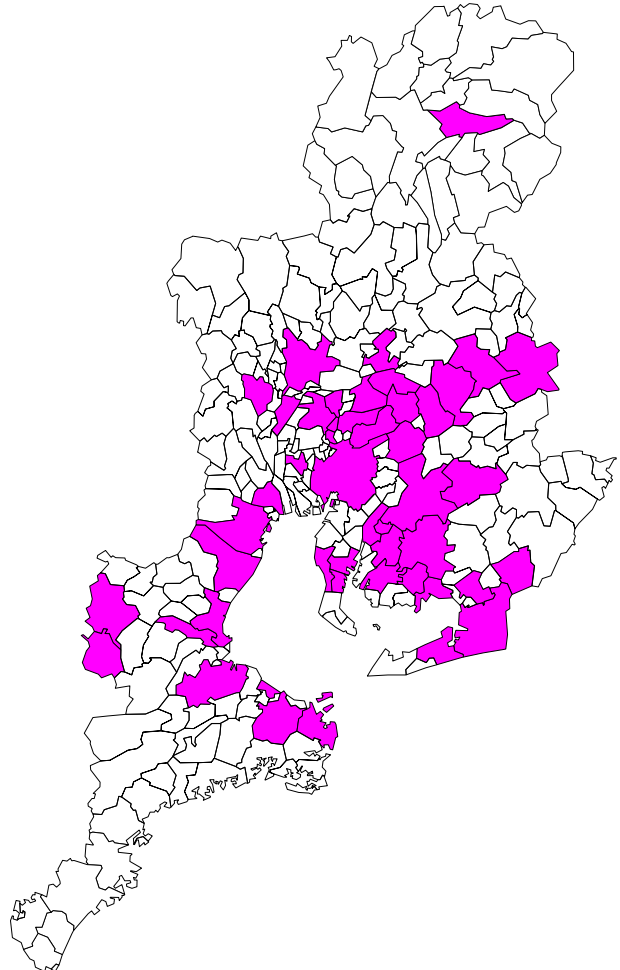
桑名市、常滑市などが該当する。

総合的な施策の展開を目的

商業活性化を図るために市街地の整備改善を進めていこうというケース。恵那市や中津川市、津島市のように企画部局が窓口になっているところもある。

東海3県では産業基盤を背景に元気な自治体が多く、都市基盤整備などのハード事業が積極的に行われてきたが、近年その実施が困難になってきており、その事業の推進方策として活性化基本計画を位置づけているところが多いことが大きな特徴であるといえる。

図 東海3県の基本計画策定自治体（網掛け）



2. 都市のタイプ分類と事例都市の位置づけ

(1) 都市のタイプ分類の方法

事例都市は愛知県の市を中心にメンバーのつながりなどから選定されたものであるが、これらの事例都市の位置づけを明らかにするため、以下の3点から都市をタイプ分類し、事例都市がどのようなタイプに該当しているのかを整理する。

人口規模：都市のレベルをみる基本指標。中心市街地の都市機能の集積にも影響を与えると考えられる。

人口増加率：都市の成長度をみる基本指標。中心市街地の活力度合いにも影響を与えると考えられる。

中心市街地形成の過程：都市の魅力資源の有無などにも影響を与えると考えられる。

(2) 人口規模からみたタイプ分類

愛知県 31 市についてみると、以下の 4 つのタイプに大別できる。

大都市：名古屋市。217 万人で突出して多い。

中核都市レベル：人口 26～36 万人。5 市。

地方中心都市レベル：人口 10～16 万人。10 都市。

中都市レベル：6～8 万人。11 都市。

小都市レベル：概ね 5 万人以下。4 都市。

名古屋市は別格なので今回の対象からは除外している。愛知県の特徴としては、独自の産業を有する地方中心都市レベルのものが多く。

(3) 人口増加率からみたタイプ分類

愛知県 31 市についてみると、以下の 4 つのタイプに大別できる。

人口急増都市：5%以上。6 都市。日進市は突出。

人口増加都市：1.3～4.3%。20 都市。

人口微増都市：0.2～0.9%。2 都市。

人口減少都市：-0.3～-1.9%。3 都市。

愛知県の増加率は 2.5% であり、全国平均 1.1% を大幅に上回っている。全国と比較すると人口増加率の面からは元気な都市が多いといえる。

(4) 中心市街地形成の過程からみたタイプ分類

愛知県 31 市についてみると、以下の 4 つのタイプに大別できる。

古い歴史を有する中心市街地：城下町、宿場町など歴史的な市街地を基礎としているもの

駅とともに発展してきた中心市街地：鉄道駅の設置とともに市街地が形成されてきたもの

政策的に誘導された中心市街地：市町村の合併等を背景に新しい中心として行政が政策的に誘導してきたもの

中心市街地がないまたは明確でない：特に中心といえるところがないもの

愛知県は日本の中心にあり、歴史のある都市が多く、また東西交通の軸として発展したところから、駅とともに中心市街地が形成されたところが多い。

表 都市データ

都市名	2000年	増加率	中心市街地の形成過程	活性化計画
名古屋市	2,171,557	0.90%	古い歴史	
豊橋市	364,856	3.40%	古い歴史	
豊田市	351,101	2.90%	新規形成	
岡崎市	336,583	4.30%	古い歴史	
春日井市	287,623	3.60%	駅とともに	
一宮市	273,711	2.40%	駅とともに	
安城市	158,824	6.30%	駅とともに	
小牧市	143,122	4.30%	駅とともに	
刈谷市	132,054	5.40%	駅とともに	
瀬戸市	131,650	1.70%	古い歴史	
豊川市	117,327	2.60%	新規形成	
半田市	110,837	4.10%	古い歴史	
桑名市	108,378	5.20%	古い歴史	
多治見市	104,135	2.80%	古い歴史	
西尾市	100,805	2.10%	古い歴史	
稲沢市	100,270	1.50%	なし	
東海市	99,921	0.20%	駅とともに	
江南市	97,923	2.50%	駅とともに	
蒲都市	82,108	-1.90%	駅とともに	
知多市	80,536	3.00%	なし	
大府市	75,273	3.00%	駅とともに	
尾張旭市	75,066	7.10%	なし	
犬山市	72,583	1.70%	古い歴史	
日進市	70,188	16.40%	なし	
碧南市	67,814	1.30%	古い歴史	
豊明市	66,495	2.50%	なし	
津島市	65,422	2.70%	古い歴史	
知立市	62,587	6.80%	駅とともに	
尾西市	57,956	1.50%	なし	
常滑市	50,183	-1.30%	古い歴史	
岩倉市	46,906	1.60%	駅とともに	
高浜市	38,127	5.80%	駅とともに	
田原町	36,981	3.40%	古い歴史	
新城市	36,022	-0.30%	古い歴史	
西春町	33,391	-0.20%	駅とともに	

*愛知県31市+事例都市としてとりあげた多治見市、桑名市、西春町、田原町

(5)タイプ分類

以上の3つの組み合わせから、人口規模別にマトリックスを作成することで、都市のタイプ分類を行い、事例都市の位置づけを整理する。

中核都市レベル

愛知県の市で該当する都市は5都市あるが、いずれも人口増加都市である。中心市街地の形成過程から3つのタイプが想定され、それぞれ1都市を事例都市としてとりあげた。

<中核都市レベル>

		人口増加率			
		人口急増都市	人口増加都市	人口微増都市	人口減少都市
形成過程	古い歴史		豊橋市 、岡崎市、一宮市		
	駅とともに発展		春日井市		
	政策的誘導		豊田市		
	中心なし				

注：太字が事例都市

地方中心都市レベル

古い歴史のある都市に特徴があり、すべてを事例都市とするとともに、岐阜県、三重県の事例を追加し、とりあげた。

駅とともに発展した市街地のタイプで人口増加率に違いがあり、これらの違いをみることも重要であり、次の課題である。

<中核都市レベル>

		人口増加率			
		人口急増都市	人口増加都市	人口微増都市	人口減少都市
形成過程	古い歴史	(桑名市)	瀬戸市、 半田市 、 西尾市 (多治見市)		
	駅とともに発展	安城市、刈谷市	小牧市、江南市、	東海市	
	政策的誘導		豊川市		
	中心なし		稲沢市		

注：太字が事例都市

中都市レベル

愛知県の市で該当する都市は11都市ある。古い歴史のある都市に特徴があり、2都市を事例都市としてとりあげた。やや取り上げ方が少なかったといえる。

ここでも駅とともに発展した市街地のタイプで人口増加率に違いがあり、次の課題である。

<中都市レベル>

		人口増加率			
		人口急増都市	人口増加都市	人口微増都市	人口減少都市
形成過程	古い歴史		犬山市、 碧南市 、 津島市		
	駅とともに発展	知立市	大府市		蒲都市
	政策的誘導				
	中心なし	日進市、尾張旭市	知多市、豊明市、尾西市		

注：太字が事例都市

小都市レベル

古い歴史を有する都市して、人口が減少している常滑市と、逆に人口増加にある田原町をとりあげた。また、駅とともに発展した都市として、近年人口が急増している高浜市と、逆に人口減少にある西春町をとりあげた。

<小都市レベル>

		人口増加率			
		人口急増都市	人口増加都市	人口微増都市	人口減少都市
形成過程	古い歴史		(田原町)		常滑市 、 新城市
	駅とともに発展	高浜市	岩倉市		(西春町)
	政策的誘導				
	中心なし				

注：太字が事例都市

(6)まとめ

人口規模では、中核都市レベルが3都市、地方中心都市レベルが5都市、中都市レベルが2都市、小都市レベルが4都市である。

人口増加率では、人口急増都市が2都市、人口増加都市が11都市、人口減少都市が2都市である。

中心市街地形成の過程では、古い歴史を有する中心市街地が9都市、駅とともに発展してきた中心市街地が3都市、政策的誘導によってつくられた中心市街地が2都市である。

やや中都市レベルの事例都市が少なかったが、様々なタイプの都市を事例都市としてとりあげることができたといえよう。

(石田 富男)